

横浜市立大学論叢

第62巻 人文科学系列 第3号

永岑三千輝教授 退職記念号

目次

永岑三千輝教授 略歴・研究業績	1
ホロコーストとヨーロッパ統合	
—二つの対極的論理と史的力学—	永 岑 三千輝 ……23
チャイナ構造下の日米中三角関係と尖閣衝突	矢 吹 晋 ……57
横浜型地域貢献企業の現状	
—横浜産業学の構築にむけて—	齊 藤 毅 憲 ……85
普仏戦争Ⅶ —メッスの戦い—	松 井 道 昭 ……103
Some Doubts on the Property Rights Approach to Privatization: A Preliminary Note	西 島 益 幸 ……139
記憶とポイエーシス	
—マイケル・フリーマンの ナラティヴ論に依拠しながら	三 上 真 司 ……173
労働省初代婦人少年局長としての山川菊栄	伊 藤 道 子 ……205
2020年代の環境危機とEMSの目標	金 子 晋 右 ……237
ナチス支持の原因についての一考察	
—Abel-Documentsを用いて—	赤 松 廉 史 ……261
チェコスロヴァキアの	
ドイツ系住民の被追放過程と統合過程	瀧 川 貴 利 ……279
(史料紹介)	
第一次大戦期末における 神奈川県在留「敵国人」調査記録	本 宮 一 男 ……297

横浜市立大学学術研究会

永岑三千輝 研究業績

I. 著書

【単著】

- ① 『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆 1941-1942』 同文館,1994年（博士論文）。
- ② 『独ソ戦とホロコースト』 日本経済評論社, 2001年（2000年度・科研費出版助成・全国図書館協議会選定図書）。
- ③ 『ホロコーストの力学—独ソ戦・世界大戦・総力戦の弁証法—』 青木書店, 2003年。

【編著】

永岑三千輝・廣田功編『ヨーロッパ統合の社会史—背景・論理・展望—』日本経済評論社, 2004年（1999-2001年度科研費（A）国際学術調査「ヨーロッパ統合の社会史の比較研究」の成果報告：2003年度・科研費助成出版）.1-16, 65-102ページ, およびケルブレ担当の第1章の翻訳。共著者は, 編者二人のほか, ケルブレ(ベルリン・フンボルト大学教授),小野塚知二（東京大学教授）,バンジャマン・コリア（パリ第13大学教授）,アルベルト・メルレル（イタリア,サッサリ大学教授）,雨宮昭彦（千葉大学教授）,新原道信（横浜市立大学助教授）。

【共著①】

井上茂子・木畑和子・芝健介・永岑三千輝・矢野久『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文館, 1989年。担当は,序章ドイツ第三帝国史研究の現在：政治と経済,国家と経済, 19-31ページ。第3章 第三帝国のフランス占領とドイツ経済界, 151-198ページ。

【共著②（担当章の執筆）】

- ①遠藤輝明編『国家と経済－フランス・ディリジズムの研究－』東京大学出版会,1982年(1981年度・科研費出版助成)。(共著者：権上康男,廣田明,廣田功,大森弘喜,原輝史,秋元英一)
担当章「第三帝国における国家と経済－ヒトラーの思想構造にそくして－」, 385-437ページ.
- ②立正大学西洋史研究室『政治と思想－村瀬興雄先生古稀記念西洋史研究論叢』1983年
担当章「第三帝国における国家と経済－化学工業独占体イ・ゲ・ファルベン社とオーストリア併合」, 85-119ページ.
- ③廣田功・奥田央・大沢真理編『転換期における資本・労働・国家-両大戦間の比較史的研究-』東京大学出版会, 1988年(1987年度科研費出版助成)。
担当章「第三帝国チェコスロヴァキア共和国解体とイ・ゲ・ファルベン」,123-151ページ.
- ④遠藤輝明編『地域と国家－フランス・レジオナリズムの研究－』日本経済評論社, 1992年(1991年度,科研費出版助成).
担当章「地域・民族・国家-両大戦間のズデーデン問題-」, 273-319ページ.
- ⑤社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 1992年.
廣田功との共著：ヨーロッパの戦後改革－フランスとドイツ－, そのうちドイツを分担. 328-334 ページ.
- ⑥西川正雄編『自国史を越えた歴史教育』三省堂, 1992年.
担当章「ドイツ＝ポーランドの対話」(二), 192-207ページ.
- ⑦権上康男・廣田明・大森弘喜編『20世紀資本主義の生成－自由と組織化』東京大学出版会, 1996年(1995年度, 科研費出版助成)。
担当章「ナチ体制下の戦後構想とドイツ資本主義の組織化」, 313

-342ページ.

- ⑧廣田功・森建資編『戦後再建期のヨーロッパ経済—復興から統合へ—』日本経済評論社, 1998年 (1997年度, 科研費出版助成)
担当章「ドイツ戦後再建の人的社会的基礎」, 55-95ページ.
- ⑨Wolfgang Klenner/Hisashi Watanabe(Hrsg.), Globalization and Regional Dynamics. East Asia and The European Union from the Japanese and the German Perspective, Heidelberg 2002.
担当: The Strategies of the Japanese Government and Trade Associations, pp. 43-49.
- ⑩横井勝彦・小野塚知二編『軍拡と武器移転の世界史』日本経済評論社、2012年3月 (2010年12月原稿提出)
担当章: 第二部・第8章 ホロコーストの力学と原爆開発

【翻訳書 (共訳・監訳・単独訳)】

- ②ハルトムート・ケルブレ著・雨宮昭彦・金子邦子・永岑三千輝・古内博行訳『ひとつのヨーロッパへの道—その社会史的考察—』日本経済評論社1997年 (第2刷, 1998年)
- ③ウォルター・ラカー編・井上茂子・木畑和子・芝健介・長田浩彰・永岑三千輝・原田一美・望田幸男訳『ホロコースト大事典』柏書房, 2003年.
- ④ハルトムート・ケルブレ著・永岑三千輝監訳・金子公彦・瀧川貴利・赤松康史訳『ヨーロッパ社会史—1945年から現在まで—』日本経済評論社, 2010年3月刊(ドイツ外務省ゲーテ・インスティテュート, 横浜学術教育財団, およびベルリン・フンボルト大学特別研究領域の出版助成. 日本図書館協会選定図書2010年4月28日付).
- ⑤ハルトムート・ケルブレ「1945年以降の独仏の社会関係」(永岑訳) 廣田功編『欧州統合の半世紀と東アジア共同体』日経済評

論社, 2009年, 15-36ページ.

- ⑥ウルリッヒ・ヘルベルト「ホロコースト研究の歴史と現在」(永岑訳)『横浜市立大学論叢』第53巻, 社会科学系列, 第1号, 2002年127-164ページ.

【教科書(担当章・節の執筆)】

- ①松田智雄編『西洋経済史』青林書院新社, 1982年(項目執筆「ナチス経済」)。(共著者は, 遠藤輝明, 関口尚志, 弓削達, 住谷一彦, 鈴木圭介, 楠井敏朗, 柳澤治, 廣田功, 秋元英一, 梅津順一ほか)。
- ②歴史科学者協議会編『卒業論文を書く—テーマ設定と資料の扱い—』山川出版社, 1997年(2004年に第三刷)(担当:「ヒトラー・ナチスと第三帝国の権力」)
- ③経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣, 2005年(ナチス期の戦後構想から「経済の奇跡」)
- ④上杉忍・山根徹也編『歴史から今を知る—大学生のための世界史講義—』山川出版社, 2010年9月。
- 担当章: 第7章 第一次世界大戦とロシア革命, および,
第8章 ファシズムと第二次世界大戦。

II. 学術論文(【査読付き】はその旨付記)(特記しない限りすべて単著)

1. [1974]「ナチスの農村進出—シュレスヴィッヒ・ホルシュタイン州について—」(1),(2),『経済学季報(立正大学,以下同)』23-2, 27-41ページ, 23-3・4, 1-38ページ.
2. [1978]「ニュルンベルク裁判文書と若干のアルヒーフ史料について」(共著者・木畑和子)現代史研究会『現代史研究』29, 43-70ページ。
【査読付き】
3. [1985]『「西ドイツ=ポーランド教科書勸告」と西ドイツの歴史教育」(上)(中)(下)教育科学研究会『教育』449, 94-111ページ, 450,

- 116-128ページ, 451, 112-127ページ, 黒田多美子, 阪野智一, 佐藤健生と(中)分担共同執筆.(上)・(下)の共同執筆者: 西川正雄, 伊集院立, 大津留厚, 清水正義, 永原陽子. 【査読付き】
4. [1985] 「イ・ゲ・ファルベン社とナチ体制—私的独占体と国家との諸関係—」『経済学季報』34-2・3, 27-102ページ.
 5. [1986] 「第三帝国のポーランド占領政策とイ・ゲ・ファルベン」『経済学季報』35-1, 95-132ページ.
 6. [1987] 「第三帝国支配下のズデーテンラントにおける経済的社会的状態」『経済学季報』36-4, 123-137ページ.
 7. [1988] 「ドイツ第三帝国とイ・ゲ・ファルベン—企業史に関する最近の研究の批判的検討—」『経済学季報』37-4, 75-120ページ.
 8. [1988] 「電撃戦から総力戦への転換期における四ヶ年計画—ドイツ戦争経済の一局面—」(一) (二) 『経済学季報』38-2, 51-93ページ, 38-3, 87-151ページ.
 9. [1989] 「ズデーデン問題の発生と展開—民族問題と地域・国家、権力政治との関連で—」『経済学季報』39-3, 1-60ページ.
 10. [1990] 「民族問題と地域・国家—国際的権力政治とズデーデン問題—」『経済学季報』39-4, 143-166ページ.
 11. [1991] 「ドイツ第三帝国のオランダ・ベルギー占領とその軍事経済的利用」『経済学季報』40-4, 29-74ページ.
 12. [1991] 「ドイツ第三帝国の占領政策と民衆意識の変遷—オランダ・ベルギー・ルクセンブルクを中心に—」『経済学季報』41-1, 37-110ページ.
 13. [1992] 「ドイツ第三帝国のソ連占領政策」(一) (二) (三) 『経済学季報』41-3・4, 3-106ページ, 42-1, 33-103ページ, 42-2, 1-104ページ.
 14. [1992] 「ドイツにおける戦後改革—その主体的要因を手がかりに—」『土地制度史学』135, 35-47ページ. 【査読付き】

15. [1993]「ゲシュタポ報告にみる国家敵対的事件の諸相—1941年夏—」
『経済学季報』43-1, 1-106ページ.
16. [1993]「独ソ戦勃発初期ライヒと占領地の「平穩」と「不穩」の重
層構造」『経済学季報』43-2, 1-73ページ, 43-3, 1-73ページ.
17. [1993]「『冬の危機』総力戦への転換と占領地の治安秩序」(1)(2)『経
済学季報』43-4, 1-51ページ, 44-1, 1-70ページ.
18. [1994]「スターリングラード敗北と総督府の全体状況」『経済学季報』
44-2, 1-85ページ.
19. [1995]「『七月二〇日』事件前夜のドイツ人民衆の動向—民衆の「麻
痺」の構造の理解のために」『経済学季報』44-3・4, 1-56ページ.
20. [1995]「ドイツ第三帝国の戦争政策の展開とホロコースト」日本の
戦争責任資料センター『戦争責任研究』8, 17-21ページ.【査読付き】
21. [1995]「疎開と逃避行、追放による難民化—敗戦前後の東部地域の
ドイツ人民衆—」『経済学季報』45-1, 1-64ページ.
22. [1995]「アウシュヴィッツの真実とホロコースト研究の現段階—
『アウシュヴィッツの嘘』の虚妄性」現代史研究会『現代史研究』41,
1-22ページ.【査読付き】
23. [1995]「ホロコーストとアウシュヴィッツの真実—第三帝国の戦争
政策の展開とユダヤ人大量虐殺—」『経済学季報』45-2, 1-58ページ.
24. [1998]「独ソ戦の展開・世界大戦化とホロコーストの力学」『横浜
市立大学紀要』社会科学系列・1, 31-123ページ.
25. [1998]「ホロコーストのダイナミズム—「絶滅政策」に関する史料批
判と史料発掘の意義」日本ドイツ学会『ドイツ研究』26, 20-33ペー
ジ.【査読付き】
26. [1999]「ドイツ経済再建の人的社会的基礎」横浜6大学連合学会
『学術大会報告』14-24ページ.
27. [1999]「ユダヤ人東方移送政策とウッチ・ゲッター問題」『横浜
市立大学論叢』49,社会科学系列・1, 51-100ページ.

28. [1999] 「ウッチ・ゲッター問題とヘウムノ・ガス自動車『安楽死』作戦」『横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 1, 1-32ページ.
29. [1999] 「ドイツ歴史学と現実政治—第三帝国戦時期をめぐる最近の論争から—」『歴史評論』591, 2-14 ページ.
30. [1999] 「ドイツ軍事大国化はなぜ実現したのか」『歴史地理教育』598, 14-19ページ.
31. [2000] 「ヒトラー『絶滅命令』とホロコースト」『土地制度史学』166, 14-19 ページ. 【査読付き】
32. [2000] 「独ソ戦の現場とホロコーストの展開」横浜市立大学論叢』50, 社会科学系列, 2・3, 43-90ページ.
33. [2000] 「繰り返される歴史の歪曲—歴史修正主義」『別冊歴史読本』56.
34. [2004] 「ホロコーストの論理と力学—総力戦敗退過程の弁証法—」『横浜市立大学論叢』55-3, 265-296ページ.
35. [2006] 「総力戦とプロテクトラートの『ユダヤ人問題』」『横浜市立大学論叢』56-3, 159-206ページ.
36. [2006] 「東ガリツィアにおけるホロコーストの展開」関東学院大学経済学部『経済系』227, 53-67ページ.
37. [2007] 「特殊自動車とは何か—移動型ガス室に関する史料紹介—」『横浜市立大学論叢』56-3, 123-142ページ.
38. [2007] 「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(1)『横浜市立大学論叢』58-1・2, 55-95ページ.
39. [2008] 「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(2)『横浜市立大学論叢』58-1・2・3, 223-257ページ.
40. [2008] 「独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト」『ロシア史研究』82, 17-25ページ. 【査読付き】
41. [2009] 「アウシュヴィッツへの道—「過去の克服」の世界的到達点の見地から—」(3)『横浜市立大学論叢』59, 人文科学系列, 1.2, 201-

218ページ.

42. [2009]「ナチス・ドイツと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 1, 49-75ページ.
43. [2010] „Neoliberale Strömungen in Japan und die Reformen der Universitäten. Das Beispiel der Yokohama City Universität“, 『横浜市立大学論叢』59-1・2・3, 57-82ページ.
44. [2010]「世界戦争の時代と『社会主義』の実験—十月革命から一国社会主義体制の成立まで—」『横浜市立大学論叢』60, 人文科学系列, 3, 47-74ページ.
45. [2010]「ハイゼンベルクと原爆開発」『横浜市立大学論叢』60, 社会科学系列, 2・3, 133-148ページ.
46. [2010]「ハイゼンベルク・ハルナックハウス演説の歴史的意味—ヒロコーストの力学との関連で—」『横浜市立大学論叢』61-3, 99-125ページ.

Ⅲ. 書評

1. [1982]「栗原優著『ナチズム体制の成立』 ミネルヴァ書房, 1982年」『土地制度史学』96, 73-75ページ.
2. [1984]合評：佐藤健生・芝健介・木畑和子・永岑三千輝「村瀬興雄著『ナチス統治下の民衆生活—その建前と現実—』 東京大学出版会, 1983年」『現代史研究』31, 99-108ページ.
3. [1985]「村瀬興雄『ナチス統治下の民衆生活—その建前と現実—』 東京大学出版会, 1983年」『社会経済史学』51-2, 115-118ページ.
4. [1994]「ノルベルト・フライ著芝健介訳『総統国家』 岩波書店, 1994年」『しんぶん 赤旗』5月30日, 8ページ.
5. [1995]「ヴィリー・ミュンツェンベルク著星乃治彦訳『武器としての宣伝』 柏書房, 1995年」『しんぶん 赤旗』4月24日, 9ページ.
6. [1996]「栗原優『第二次世界大戦の勃発』 名古屋大学出版会, 1994」

- 『土地制度史学』 150, 57-58ページ.
7. [1996]「星乃治彦『社会主義国家における民衆の歴史』法律文化社, 1994』『土地制度史学』 151, 59-60 ページ.
 8. [1996]「芝健介『武装SS—もう一つの暴力装置』講談社, 1995』『歴史学研究』 687, 56-58ページ.
 9. [1997]「歴史学研究会編『講座世界史 6 必死の代案』東京大学出版会, 1995』『歴史学研究』 693, 63-64ページ.
 10. [1997]「豊永泰子『ドイツ農村におけるナチズムへの道』ミネルヴァ書房, 1994』『社会経済史学』 62-5, 139-142ページ.
 11. [1997]「工藤章『イ・ゲ・ファルベンの対日戦略』東京大学出版会, 1995』『経営史学』 32-2, 84-86ページ.
 12. [1998]「大島通義『総力戦時代のドイツ再軍備』同文館, 1996』『社会経済史学』 64-2, 122-124ページ.
 13. [1999]「栗原優『ナチズムのユダヤ人絶滅政策』ミネルヴァ書房, 1997』『土地制度史学』 163, 70-72ページ.
 14. [1999]「田村栄子『若き教養市民層とナチズム』名古屋大学出版会, 1996』『社会経済史学』 65-2, 110-112ページ.
 15. [2001]「アンソニー・リード/デーヴィッド・フィッシャー著根岸隆夫訳『ヒトラーとスターリン』上(死の抱擁), 下(バルバロッサ作戦), みすず書房, 2001』『図書新聞』 2551.
 16. [2003]「アラン・ブロック著『対比列伝 ヒトラーとスターリン』(全3巻), 草思社, 2003』『図書新聞』 2654.
 17. [2004]「ヘルガ・シュナイダー著高島市子・足立ラーベ加代訳『黙って行かせて』新潮社, 2004』『しんぶん 赤旗』 12月12日, 11ページ.
 18. [2006]「矢野久『ナチス・ドイツの外国人—強制労働の社会史』現代書館, 2004』『経営史学』 41-1, 75-77ページ.
 19. [2006]「ミヒャエル・デーゲン著小松はるの・小松博訳『みんなが殺人者ではなかった』影書房, 2005』『しんぶん 赤旗』 4月2日,

9 ページ.

20. [2007]「フランク=ロタル・クロル著小野清美・原田一美訳『ナチズムの歴史思想』柏書房, 2006」『社会経済史学』73-4, 106ページ.
21. [2010]「西川正雄著 (伊集院立・小沢弘明・日暮美奈子編)『歴史学の醍醐味』日本経済評論社, 2010」『社会経済史学』76-2, 166-168 ページ.

IV. 座談会・インタビュー記事, その他

1. [1983]「座談会：地方史のあり方—外国人研究者の見聞—」(出席者・広田功, 小谷汪之, 永岑三千輝; 司会・北原進, 田中弥次右衛門)『史誌』20, 3-28ページ.
2. [1986]「ゾンマー・フェーリエン」立正大学学生部編『橘だより』昭和61年夏期号, 8 ページ.
3. [1993]「今日のヨーロッパの激動とナチス問題」DAAD友の会『ECHO』8, 5-6ページ.
4. [1995]「『アウシュヴィッツの嘘』と歴史の真実」『前衛』663, 71-87ページ.
5. [1998]「先生教えて：アウシュヴィッツで虐殺された数は？」『歴史地理教育』574, 94-95ページ.
6. [1998]「ホロコースト・ガス室をめぐる論争を契機に一歴史研究におけるインターネット利用—」『歴史評論』578 (特集号：歴史研究におけるインターネット利用), 45-46ページ.
7. [2000]「ドイツにおける『普通の人びと』の戦争犯罪論争」日本経済評論社『評論』121, 1-3ページ.
8. [2001]「インタビュー・永岑三千輝氏に聞く『独ソ戦とホロコースト』」『図書新聞』2527. (インタビューアー：米田綱路編集長)
9. [2003]「研究ノート：ホロコーストはいつなぜ？」『しんぶん 赤旗』1月24日, 9 ページ.

10. [2003]「インタビュー記事『独ソ戦とホロコースト研究』」『歴史地理教育』651（【特集・ナチスの時代】）、14-21ページ。（インタビューアー：菊地・村松）
11. [2003]「ホロコーストわい曲許さない 対抗の武器鍛える歴史家」『しんぶん 赤旗』12月9日、9ページ。
12. [2004]「インタビュー記事『ホロコーストの力学』・『歴史の実証の力』『解きあかされるホロコーストの論理と力学』」『図書新聞』2662。（インタビューアー：米田綱路編集長）
13. [2004]「横浜市立大学の独立行政法人化の問題点—大学の自治の観点から—」『労働法律旬報』1588, 11月25日, 22-25ページ。
14. [2005]「『ヒトラー最後の12日間』を見て」『しんぶん 赤旗』7月22日, 9ページ。
15. [2007]「先生には人生の転機ごとに大変お世話になりました」大場治夫編著『内村・新渡戸精神の銀河系小宇宙—南原繁・矢内原忠雄精神を経由した松田智雄と隅谷三喜男の精神史』国際学術技術研究所・星雲社。
16. [2008]「全大協インタビュー：専門研究について—歴史の実相認識を深く広く豊かに—」『全大協』232, 4ページ。（インタビューアー：藤井旭）
17. [2008]「ドキュメンタリー映画『敵こそ、わが友—戦犯クラウス・バルビーの3つの人生』が描く現代史」『しんぶん 赤旗』8月1日, 9ページ。

V. 学会報告

1. [1998]「ドイツ経済再建の人的社会的基礎」横浜6大学連合学会（1998年12月5日）
2. [1999] „Internationalisierung des Yens “und die„ New Miyazawa Initiative” — Strategie der japanischen Regierung und

Wirtschaftsverbände－, Deutsch-Japanische Wirtschafts- und Sozialtagung. Bochum, BRD, 19.-21. 1999.

3. [2000] 「シンポジウム：ホロコースト研究をめぐって」現代史研究会第384回例会（於：青山学院大学, 7月15日）
4. [2007] „Neoliberale Strömungen in Japan und die Reformen der Universitäten. Das Beispiel der Yokohama City Universität“, Humboldt Universität zu Berlin, 28. 6. 2007.
5. [2007] 「独ソ戦・世界大戦の展開とホロコースト」ロシア史研究会, 2007年度大会（於：早稲田大学, 11月10日）
6. [2009] 「第三帝国の軍拡政策と国際関係－第3報告・ホロコーストの力学と原爆開発－」社会経済史学会, 2009年度大会（於：東洋大学, 9月27日）

【外国研究者招聘・国際学術セミナー企画・同時通訳等】

- 2001年2月28日 ウルリッヒ・ヘルベルト（フライブルク大学教授）
「ホロコースト研究の歴史と現在」
- 2002年4月25日 ロベール・フランク（ソルボンヌ大学・パリ第一
大学教授）「ヨーロッパ統合と仏独和解の社会史」
- 2003年5月15日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト
大学教授）「ヨーロッパの社会史・研究史概観」
- 2005年5月10日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト
大学教授）「第二次世界大戦後のヨーロッパの家族
社会史－ヨーロッパ統合の社会史の一側面－」
- 2008年4月17日 ハルトムート・ケルブレ（ベルリン・フンボルト大学
教授）「戦後ドイツの教育の社会史と大学改革－ヨ
ロッパ的比較の視点で－」
- 2008年12月11日 ボグダン・ムルジェスク（ルーマニア・ブカレス
ト大学教授）「ルーマニアのEU加盟の歴史的意

義」

【地域貢献・市民講座】

- 1999年9月8日 横浜市立大学リカレント講座(於・アーバンカレッジ・上大岡)「ホロコーストの力学－戦争の世紀20世紀をふりかえって－」
- 2000年10月21・22日 第17回よこはま21世紀フォーラム「ヨーロッパ統合と日本」(於・横浜シンポジア)企画委員・第2セッション「ヨーロッパ統合史と21世紀のアジア」運営
- 2005年11月2日 東京都渋谷区市民講座「ドイツの歴史－近世から現代まで－」(於・千駄ヶ谷社会教育館)「第3講 ユダヤ人迫害と第二次世界大戦」
- 2006年1月26日 横浜市立大学リカレント講座(於・アーバンカレッジ・上大岡)「ホロコーストの論理と力学」
- 2006年5月～6月 横浜市立大学リカレント講座(於・みなとみらいランドマークタワー13階,横浜市立大学エクステンションセンター)「アウシュヴィッツへの道」企画・担当
1. 5月17日 ヒトラー・ナチズムの世界観と思想構造－ヒトラー、ヒムラー、ハイドリヒのもの考え方は？－
 2. 5月24日 独ソ戦の展開と「ユダヤ人問題」－治安警察・保安部の秘密報告書はなにを語るか？－
 3. 5月31日 世界戦争への突入とヴァンゼー会議－議事録から浮かび上がることは何か？－
 4. 6月7日 戦後ドイツにおける「過去の克服」

—信頼されるドイツの構築—

石田勇治氏 (東京大学教授)

- 2006年11月14日 高校講座 (於・神奈川県立追浜高校) 「学問紹介・史学—ホロコースト研究を素材にして—」
- 2006年12月5日 エクステンション講座「世界の戦争と民衆」(於・みなとみらいランドマークタワー13階・横浜市立大学エクステンションセンター) 「第三回 ヒトラーの戦争とヨーロッパの民衆」
- 2007年5月～6月 エクステンション講座(於・みなとみらいランドマークタワー13階・横浜市立大学エクステンションセンター) 「ヨーロッパ統合の到達点は何を意味するか—極端の世紀20世紀を振り返って—」
- 企画・運営
1. 5月9日 西川 正雄
(東京大学名誉教授)
 2. 5月16日 小野塚知二
(東京大学大学院経済学研究科教授)
 3. 5月23日 小島 健
(立正大学大学院経済学研究科教授)
 4. 5月30日 木畑 洋一
(東京大学大学院総合文化研究科教授)
 5. 6月6日 廣田 功
(新潟大学教授・東京大学名誉教授)
- 2010年5月～6月 エクステンション講座 (於・横浜市立大学八景キャンパス・エクステンションセンター) 2つの世界大戦とヨーロッパ統合」
- 企画・担当
1. 5月12日 第一次世界大戦とロシア革命

2. 5月19日 ファシズムと第二次世界大戦
3. 5月26日 総力戦とホロコースト
4. 6月2日 世界大戦の克服とヨーロッパ統合
(横浜市立大学共同研究員：
瀧川貴利・赤松廉史との共同講義)

【科学研究費補助金（研究代表のみ）】

1995年度～1997年度 科学研究費補助金・基盤（B）

「麻痺の構造－大戦末期・敗戦直後のドイツ人民衆の社会経済的状态－」

1999年度～2001年度 科学研究費補助金・基盤（A）・国際学術調査「ヨーロッパ統合の社会史の比較研究」

2002年度～2004年度 科学研究費補助金・基盤（C）「ホロコーストの論理－総力戦の政治と経済の力学－」